



〔海の状況(9/21~10/20)〕

神子表面水温……期間全体をとおして、平年並み(平年より±0.5℃)で推移した(図1)。

米ノ表面水温……期間の前半にやや低め(平年より0.5~1℃程度低め)となる日がみられたものの、全体をとおして平年並みで推移した(図2)。

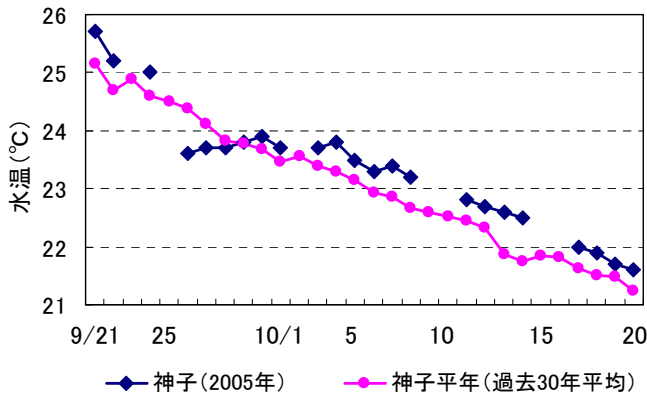


図1 若狭町神子地先における表面水温の推移

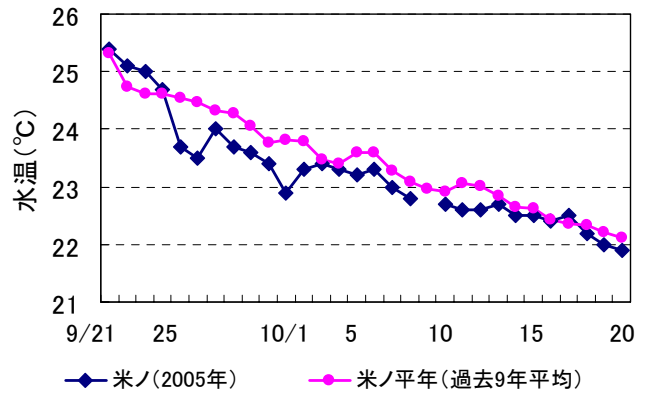


図2 越前町米ノ地先における表面水温の推移

100m深水温……丹後半島北西沖に山陰・若狭沖冷水域の接岸がみられ、沿岸域には16~17℃台の水域が広がっていた。

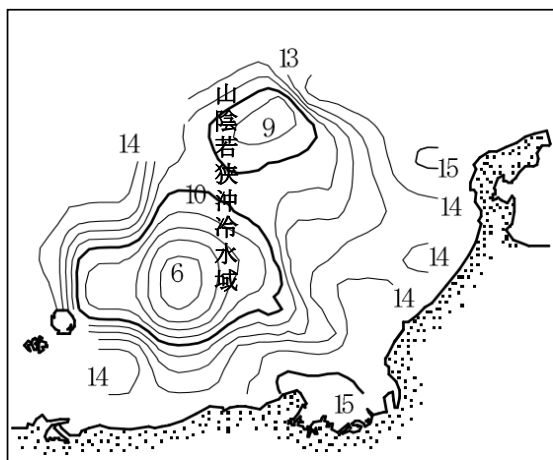


図3 2005年10月上旬の100m深水温

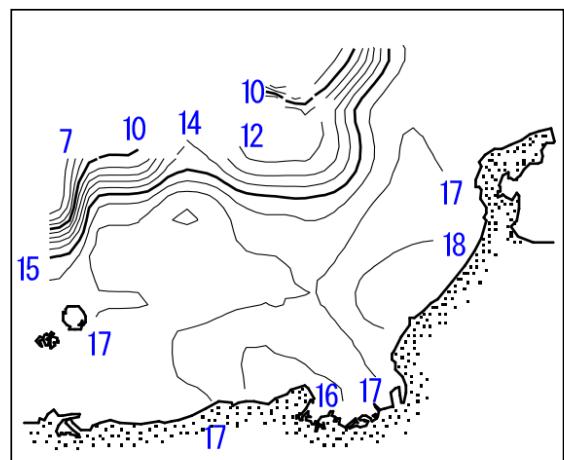


図4 2004年10月上旬の100m深水温

平成17年度第3回日本海海況予報

日本海区水産研究所が、平成17年10月から12月までの日本海海況予報を発表しましたので、関係部分を紹介します。

○山陰若狭沖冷水域は、6月から8月にかけては規模は小さく離岸していたものの、9月になると規模は大きく接岸していた。今後の張り出しも“やや強く”推移するでしょう。

○対馬暖流域の表面水温は、6月以降は概ね“平年並み”から“やや高め”で推移していた。今後も“やや高め”で経過するでしょう。

○対馬暖流域の50m深水温は、4月から6月は“やや高め”、7月から9月は“やや低め”で推移していた。今後は“平年並み”で経過するでしょう。

(松宮 由太佳)

〔漁の様相〕

2005年9月の県内の総水揚量は959tで、2004年同月を34t下回った。サバ類(2005年;22t, 2004年;2t)、ブリ類(134t, 119t)、サワラ(253t, 214t)、フグ類(27t, 12t)、ケンサキイカ(21t, 4t)、タコ類(15t, 5t)等は上回ったものの、アジ類(74t, 103t)、マグロ類(2t, 15t)、キダイ(14t, 25t)、その他カレイ(57t, 89t)、キス類(6t, 43t)等は下回った。

漁業種類別の状況

定置網 ……アジ類、マグロ類等は下回ったものの、サバ類、ブリ類、サワラ、フグ類、ケンサキイカ等は上回り、全体で44t上回った。

底びき網 ……タコ類等は上回ったものの、キダイ、その他カレイ、キス類等は下回り、全体で87t下回った。

釣り・他 ……ブリ類、マダイ、キダイ、アマダイ、メバル類等は下回ったものの、アジ類、ケンサキイカ、タコ類等は上回り、全体で9t上回った。

〔県内主要漁業の9月の漁獲量〕

(調査対象市場：三国・越前・敦賀・早瀬・小浜の各漁連支所、福井市・越前町・若狭高浜の各漁協)

(単位:kg)

定置網			
魚種	2005年	2004年	95-04平均
カタクチイワシ	30	0	24,323
アジ類	72,727	101,765	89,031
サバ類	22,071	1,789	39,272
マグロ類	2,170	14,688	4,981
カジキ類	4,028	4,687	14,163
カツオ類	2,232	5,697	16,848
ブリ類	133,655	118,304	189,277
ヒラマサ	14,393	9,429	11,838
シイラ	41,143	47,735	73,025
サワラ	253,366	214,443	79,551
マダイ	2,421	1,399	3,756
スズキ	1,427	1,216	863
カマス	6,649	9,278	26,172
フグ類	27,391	11,824	19,079
タチウオ	326	1,629	1,414
アオリイカ	7,363	6,912	11,159
ケンサキイカ	10,078	264	4,619
ソデイカ	831	396	7,122
その他	19,528	26,311	29,543
合計	621,829	577,767	646,036

底びき網			
魚種	2005年	2004年	95-04平均
ヤリイカ	150	2,620	695
コウイカ	176	1,026	680
タコ類	9,439	1,594	3,532
アカエビ	51,197	54,037	49,176
その他エビ	4,238	5,704	7,806
その他	58,561	70,437	69,860
合計	262,463	349,408	318,598

釣り、延縄、さし網、その他のつづき			
魚種	2005年	2004年	95-04平均
アジ類	1,416	269	971
サバ類	163	2	187
ブリ類	248	1,031	1,035
シイラ	394	3	97
マダイ	2,225	5,618	4,813
キダイ	4,448	7,950	3,490
アマダイ	4,476	7,820	5,716
ヒラメ	378	752	1,032
タチウオ	598	376	281
アナゴ	214	238	427
メバル類	2,928	5,172	3,151
キス類	795	315	395
アオリイカ	3,065	2,694	5,441
ケンサキイカ	10,587	3,509	15,084
ソデイカ	9,319	7,789	44,580
タコ類	5,144	3,192	5,891
その他エビ	846	552	731
その他	27,981	19,240	76,334
合計	75,225	66,522	169,655

底びき網			
魚種	2005年	2004年	95-04平均
マダイ	2,486	2,603	3,905
キダイ	9,590	17,042	9,674
ヒラメ	258	1,457	281
アカガレイ	58,232	53,929	76,690
その他カレイ	56,426	88,493	69,202
アナゴ	3,719	7,190	5,057
ハタハタ	1,573	828	2,255
ニギス	5,140	42,195	19,323
スルメイカ	1,280	253	461

総計	2005年	2004年	95-04平均
	959,517	993,697	1,242,364

〔近府県の漁様相〕

(9月下旬から10月中旬の漁獲状況……1日1隻または1統あたり。京都府の定置網漁獲量は舞鶴漁連への1日あたりの水揚量。)

- 石川県 …… 定置網 …… アジ130kg、サバ40kg、フクラギ31kg、シイラ30kg、サワラ28kg
 底曳網 …… ハタハタ68kg、アマエビ66kg、ニギス48kg、アンコウ21kg
- 京都府 …… 定置網 …… ブリ2.7t、マアジ2.6t、サワラ2.1t、シイラ0.9t
- 兵庫県 …… 定置網 …… カワハギ168kg、ツバス77kg、ケンサキイカ67kg、アジ19kg
- 鳥取県 …… まき網 …… マサバ18.6t、マアジ11.7t、マイワシ3.0t、ブリ類3.0t

(松宮 由太佳)

“ハダムシ寄生注意報発令”

トラフグ養殖業者の皆様へ

いよいよトラフグの出荷時期がきましたが、現在飼育しているフグは順調に育っていますか？（よく泳いでいますか。よく餌を食べていますか。魚体にスレや傷はありませんか。）県内のトラフグ養殖場では、10月に入り、ハダムシの寄生が多く、連日駆虫作業が行われていましたが、飼育しているフグの行動を一度よく観察して下さい。

- ①網生簀に体をこすりつけるような行動が見られる。
- ②体表や鰭に「発赤」や「スレ」のある個体がいる。
- ③餌喰いが悪くなった。などの症状は見られませんか？

以上のような症状が観察される場合は、取り上げて魚体を調べてみて下さい。ハダムシが多く寄生している場合があります。

トラフグの体表に寄生するハダムシはネオベネデニア・ギレレ *Neobenedeniagirellae*（写真1・2）といい、大きさは3～8mmほどの大きさで、生きているときは見にくいですが、よく観察すると肉眼でも確認することができます。



写真1. トラフグに寄生する虫体



写真2. ネオベネデニア・ギレレの幼虫

この虫は、トラフグ以外にマダイやヒラメなどにも寄生します。これまでのデータから本県では、8～11月（水温16℃以上）頃に発生していますので、11月も引き続き注意する必要があります。

駆虫方法としては、淡水浴（5分間程度でトラフグの体表に寄生している虫体は白くなり脱落する。）が確実に経費のかからない方法ですが、淡水が確保しにくい場合は、過酸化水素製剤による薬浴も有効です。しかし、この方法で行う場合は水温や薬浴する濃度、薬浴時間には十分注意して下さい。また、卵には長いフィラメント状の付属物があり、網生簀に絡みやすいことから網替えも寄生を軽減させる有効な方法です。

安全でおいしい日本一の養殖トラフグ「若狭ふぐ」を目指して頑張りましょう。

（高垣 守）

*注:ネオベネデニア・ギレレ以外の寄生虫が体表に多く寄生した場合でも粘液の過剰分泌や網生簀に体をこすりつける、餌喰いが悪くなるなどの症状を示すことがあります。

大型クラゲに負けるな！！

ー防除定置網の開発ー

今年は例年よりも早く、しかも2年ぶりに大量の大型クラゲが漂着し、漁業者の皆さんは大変苦労されていることと思います。

水産試験場では、昨年から、県定置組合、日東製網（株）と協力して大型クラゲ防除定置網の開発に取り組んでいます。改良には、①箱網に入網するクラゲの数を減らすこと、②箱網に入網したクラゲを魚類と効率よく分離・排出することの2点が考えられます。

今回は①の開発結果について紹介します。

その方法は、魚を箱網に誘導する垣網の目合いを大きくして、クラゲだけを通過させてしまおうというものです（図1）。ただ、目合いが大きくなると魚も通過してしまい、箱網へ誘導されないのではないかと心配があります。しかし、心配はご無用！！実験の結果では、クラゲが垣網を通り抜け、魚が箱網へ誘導されることが確認されました。

今年の7月から若狭高浜漁協の3カ統の大型定置網のうち、磯網に大目垣網を設置し（以下試験網）、実験を行いました。

垣網での魚やクラゲの行動を観察したところ、アジ、小型のブリ（写真1）、サワラ、シイラ、カワハギ類等が大目に沿って遊泳し、箱網の入り口まで達することが確認されました。そして、大型クラゲについては大目のところに来たものだけでなく、通常目合いのところで行く手を阻まれたクラゲも網に沿って遊泳し、大目のところで抜けていきました（写真2）。

また、実際の漁獲を見ても、サワラはむしろ試験網の方で多く漁獲され、アオコやワラサも試験網設置前後で漁獲量の差はありませんでした。それに対して大型クラゲは、試験網への入網数が通常網の1割でした。

このように、大目垣網は大型クラゲの箱網への入網数を減らし、魚類の誘導には影響を与えない画期的なものです。本県でもすでにいくつかの業者が大目垣網を導入していますが、この成果がテレビで放映されたため、いくつかの県から問い合わせがあり、富山県や青森県の業者が大目垣網を導入したそうです。

（杉本 剛士）

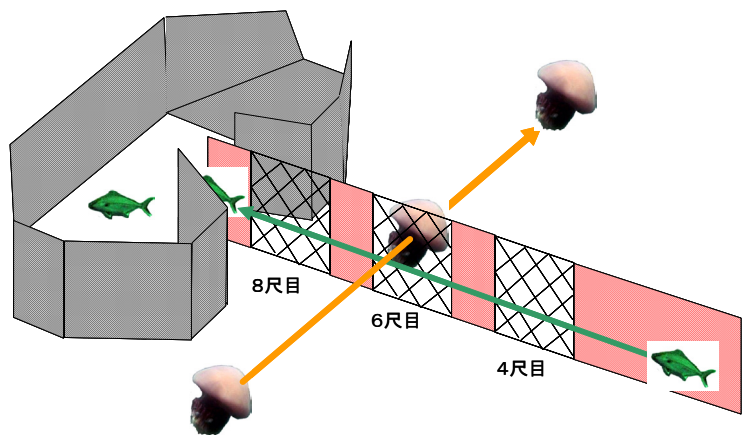


図1 大目垣網の模式図



写真1 6尺目に沿って泳ぐハマチ

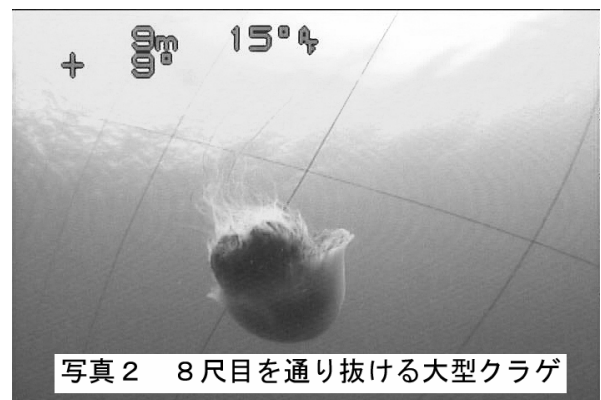


写真2 8尺目を通り抜ける大型クラゲ